

## IV 各教科の分析結果

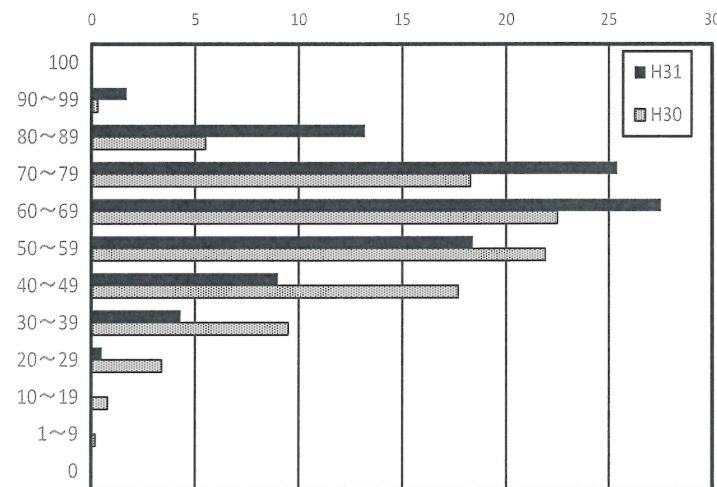
### 国語

#### 1 得点分布及び大問ごとの正答率

〈表1〉 得点分布

得点	H31 %	H30 %
100	0.0	0.0
90~99	1.7	0.3
80~89	13.2	5.5
70~79	25.4	18.3
60~69	27.5	22.5
50~59	18.4	21.9
40~49	9.0	17.7
30~39	4.3	9.5
20~29	0.5	3.4
10~19	0.0	0.8
1~9	0.0	0.2
0	0.0	0.0

〈グラフ〉 得点分布



\*合格者の中から、無作為に抽出した630人(13.5%)の結果である。

\*%の数値は、小数第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉 大問別の正答率の経年比較

大問	主な内容	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
□	文学的な文章	64.3	68.8	67.2	57.3	72.6
□	説明的な文章	62.8	57.4	65.3	58.9	67.3
□	言語活動	42.0	49.2	69.2	48.6	56.1
□	古典	51.2	58.9	52.0	62.3	59.4

#### 2 分析結果の概要

合格者の国語の平均点<sup>(※)</sup>は、62.8点で、昨年度と比べ上昇した(昨年度55.2点)。

(※) 平均点は全日制すべての合格者4,678人のものである。

〈表1〉について、60点台の人数が全体の27.5%で最も多かった(昨年度は、60点台で22.5%)。70点以上の人�数は全体の40.3%で、昨年度に比べ増加した(昨年度24.1%)。40点未満の人数は全体の4.8%で、昨年度に比べ減少した(昨年度13.9%)。

〈表2〉について、□、□、□の問題の正答率が昨年度より高かった。一方、□の問題の正答率は昨年度より低かった。

「3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい・正答率」について、正答率80%以上の問題数は13問で昨年度に比べ増加した(昨年度7問)。基礎的・基本的な言語事項や内容を問う問題の正答率が高かった。正答率40%未満の問題数は4問で、昨年度と変わらなかった。文章や資料から読み取った情報を思考・判断して表現する設問の正答率が低かった。具体的には、漢字の読み書き(□、□の問一)、文脈の中における語句の意味(□、□の問二)、和語・漢語(□の問一)、文語のきまり(□の問二)、登場人物の言動の意味(□の問四)といった問題の正答率が高かった。一方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえた内容の理解(□の問五)、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分けた要旨の把握(□の問四)、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣い(□の問二)、作者の思いなどの想像(□の問三2)といった問題の正答率が低かった。

### 3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい・正答率

大問	小問	学年・領域	出題内容・ねらい	正答率(%)										
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
Ⅰ	問一	文学的な文章	文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。	63.8	60	65	70	75	80	85	90	95	100	
				93.8	90	95	100							
				88.1	85	90	95							
	問二		文脈の中における語句の意味を的確にとらえ理解することができる。	92.2	90	95	100							
	問三		登場人物の描写に注意して読み、内容の理解に役立てることができる。	88.3	85	90	95							
	問四		登場人物の言動の意味を考え、内容の理解に役立てることができる。	94.4	90	95	100							
Ⅱ	問一		文脈に即して漢字を正しく読み書きすることができる。	38.7	35	40	45	50	55	60	65	70	75	
				63.2	60	65	70	75	80	85	90	95	100	
				99.0	95	100								
	問二		文脈の中における語句の意味を的確にとらえ理解することができる。	94.6	90	95	100							
	問三		文章全体と部分の関係を考え、内容の理解に役立てることができる。	95.4	90	95	100							
	問四		文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、要旨をとらえることができる。	18.3	15	20	25	30	35	40	45	50	55	
Ⅲ	問一	言語活動	漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くことができる。	57.8	50	55	60	65	70	75	80	85	90	
				71.3	65	70	75	80	85	90	95	100		
				98.9	95	100								
	問二		文脈の中における語句の意味を的確にとらえ理解することができる。	82.6	75	80	85	90	95	100				
	問三		文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容の理解に役立てることができる。	13.1	10	15	20	25	30	35	40	45	50	
	問四		文章の構成や展開、表現の仕方について評価することができる。	52.5	45	50	55	60	65	70	75	80	85	
Ⅳ	問一		和語・漢語などの使い分けに注意し、語感を磨き語彙を豊かにすることができます。	47.5	40	45	50	55	60	65	70	75	80	
				60.9	55	60	65	70	75	80	85	90	95	
				67.5	60	65	70	75	80	85	90	95	100	
	問二		相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いなどで話すことができる。	71.5	65	70	75	80	85	90	95	100		
	問三		話の中心的な部分と付加的な部分に注意し、論理的な展開を考えて話すことができる。	39.7	35	40	45	50	55	60	65	70	75	
	問四		目的や状況に応じて、資料を効果的に活用して話すことができる。	59.5	50	55	60	65	70	75	80	85	90	
Ⅴ	問一	古典	古典に表れたものの見方や考え方触れ、作者の思いなどを想像することができる。	49.4	40	45	50	55	60	65	70	75	80	
				40.9	35	40	45	50	55	60	65	70	75	
				71.5	65	70	75	80	85	90	95	100		
	問二		古典の様々な種類の作品を分類することができる。	97.1	90	95	100							
	問三		歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しむことができる。	91.4	85	90	95	100						
	問四		古典に表れたものの見方や考え方触れ、作者の思いなどを想像することができる。	40.9	35	40	45	50	55	60	65	70	75	
Ⅵ	問五			49.4	40	45	50	55	60	65	70	75	80	
				39.7	35	40	45	50	55	60	65	70	75	
Ⅶ	問六			59.5	50	55	60	65	70	75	80	85	90	
				52.5	45	50	55	60	65	70	75	80	85	

## 4 特徴的な問題

### ＜ねらい＞

この問題は、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てる問題である。

### ＜分析＞

正答率は38.7%であった。課題としては、叙述から登場人物の言動の意味を考えながら、心情の変化の過程をとらえ、条件に適する形で表現できていないことなどが考えられる。

### ＜提案＞

日常の指導では、登場人物の言動の意味を、話の展開や作品全体に表れたものの見方との関わりのなかで考えさせたり、叙述を根拠にして読み取った内容を、言葉と言葉の関係に注意しながら、自分の言葉で表現させたりする機会を増やすなどの工夫が必要である。

一

問五

文章中に  
線③

とあるが、  
とあるが、

ここに至るまでの僕の心情の変化を、きっかけとなつた出来事を含めて、六十字以内で書きなさい。

※著作権の関係により、問題の一部について掲載しておりません。

### （標準解答）

（例）全国大会に行けずに悔しかつたが、良太から結果に自信をもつべきだと励まされ、高校でも一緒に陸上を続けようと前向きになつた。

### （標準解答）工

二

問六

文章中の19～21段落の役割と筆者の考え方の説明として、最も適当なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 弟子が頼んでも師匠は教えない師弟関係の厳しさを示して、我慢が習得の要素だとする筆者の考えを読者に実感させていく。  
イ 技を盗んで成功した実例を示して、自分のマニュアルを作ることがまねることの目標だとする筆者の考えを補強している。  
ウ わずかな指導でもまねに成功したという実例を示して、逆境こそが人間を成長させるという筆者の考え方の論拠にしている。  
エ 芸は盗むものだという落語の稽古の話を示して、主体性と意欲が上達の条件だとする筆者の考えに説得力をもたせていく。

### ＜ねらい＞

この問題は、文章の論理の展開の仕方をとらえ、内容の理解に役立てる問題である。

### ＜分析＞

正答率は71.3%であった。課題としては、具体例の役割を直近の段落で考え、文章全体の論の展開でとらえていないことなどが考えられる。

### ＜提案＞

日常の指導では、段落ごとの内容を把握するだけでなく、文章全体の論述の過程から書き手のものの見方や考えの進め方を読み取り、文章の解釈に生かす活動を取り入れるなど、段落分けが書き手の考え方や文章全体の理解の深まりにつながるような工夫なども必要である。

二

三

問五 和美さんは、広志さんと真樹さんのアドバイスに従って、フリップ③についての発表原稿の□で囲った段落を書き改めました。その発表原稿を、八十字以内で書きなさい。ただし、書き出しは、広志さんのアドバイスを参考にして書くこと。

#### 〈発表原稿〉

▼3 さらに、治憲は、現代でも、全国の自治体の首長を対象にしたアンケートで、理想的リーダーとして名前が挙げられています。

#### （話し合いの様子）

真樹： 広志：  
 フリップの提示の仕方について、述べてもいいですか。  
 例えば、フリップ②を提示するとき、「フリップを見てください。これは、当時の米沢織を作る様子です。」などの声かけをしてからフリップを提示すると、さらにいい発表になるかと思います。

#### 〈標準解答〉

##### （例）

フリップを見てください。これは、全国の自治体の首長にしてからアンケートの結果です。治憲は理想的リーダーとして他の人物と比べて最も多く名前が挙げられています。

#### 〈ねらい〉

この問題は、論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書く問題である。

#### 〈分析〉

正答率は60.9%であった。課題としては、条件や話し合いの内容に従い、複数の資料から必要な情報を取り出したうえで、発表原稿を書き改めていないことなどが考えられる。

#### 〈提案〉

日常の指導では、話し合いの目的や相手の発言の意図を理解した言語活動ができているか、論理の展開を工夫し、目的や状況に応じた資料を適切に引用して、説得力のある文章が条件に沿って書けているかを、生徒相互、指導者が評価しながら進めるなどの工夫が必要である。

四

問三 次の□の中の文は、古文Bについて説明したものである。（1）、（2）に入る適当な言葉を書きなさい。ただし、（1）は二字で書き、（2）は十字以内で具体的に書くこと。

#### 〈標準解答〉

##### 2 1

（例）春の景色を想像する

まず、暦の上の季節と、実際の景色との（1）に気付いたことが示された後、「とくらむ」とあるように、目の前にはない（2）ことが示されて、寒さの中の春が読み手に強く印象づけられている。

#### 〈ねらい〉

この問題は、古典に表れたものの見方や考え方方に触れ、作者の思いなどを想像する力をみる問題である。

#### 〈分析〉

正答率は1が71.5%、2が39.7%であった。課題としては、現代語訳を参考にしながら、作者が伝えたかったことがとらえられていないことなどが考えられる。

#### 〈提案〉

古典を読むための知識や技能の定着を図ったり、現代語訳を理解したりするだけでなく、現代語訳や語注をとおして、古典作品から読み取れる当時のものの見方や考え方をまとめたり、作者の思いなどを想像したりする活動を取り入れるなどの工夫が必要である。